

■川越シャトルの見直しに関する進め方（イメージ図）

川越シャトルの現状把握

- <路線>
 - ・駅を中心とした路線設定（13系統・155停留所）
 - ・路線バスとの重複や競合を可能な限り回避
 - ・運行距離10km程度・運行時間30分程度・道路幅員6m以上の道路の運行を基本
- <料金>
 - ・初乗り料金 現金180円・ICカード175円、距離に応じた料金体系
- <市からの財政補助>
 - ・約1億1,700万円（平成26年度実績）
- <利用実績等>
 - ・無料利用者の利用率の増加
 - ・利用頻度の高い路線と低い路線が顕著化
 - ・便数の増加や新規路線の設定など多数の要望有り

川越シャトルの課題の抽出

- ①人口減少・超高齢化社会への対応
 - ・利用者ニーズに合ったダイヤ等の見直し
 - ・運行本数の見直しや輸送力増加の方策
- ②公共交通によるまちづくり
 - ・交通ネットワークの充実
 - ・川越市都市・地域総合交通戦略を見据えた路線の見直し
- ③川越シャトルの収支バランス
 - ・運行経費の削減
 - ・料金体系の見直し
- ④市民や利用者に親しまれる川越シャトル
 - ・市民、自治会及び各種団体による主要な要望への対応

【目標の数値化（指標）】

- ・利用者数を〇〇%以上増加
- ・収入を〇〇%以上増加
- ・1人当たりの運行経費を〇%削減

今回の見直しにおける3つの柱（理念）

- ①市民の生活を支える「生活の足」となる交通 <生活の交通>
- ②人口減少・超高齢社会を見据え、将来にわたって持続可能な交通 <持続可能な交通>
- ③利用者・バス事業者・行政が協働で取り組む交通 <協働の交通>

今回の見直しコンセプト（基本方針）

- ①市民や利用者に親しまれ、生活の足として欠かすことができない公共交通を目指します。
- ②川越シャトルの利用者が減少すると、今後の運行が維持できなくなる可能性があるため、川越シャトルの利用者数をさらに増加させ、継続的な利用が持続的運行につながることを広く周知します。
- ③『みんなで支える川越シャトル』の意識を、利用者・バス事業者・行政すべてが共有することとします。
- ④前回の見直し方針を原則として継続し、運行距離10km、運行時間30分程度とし、6m以上の幅員がある道路を運行することを基本とします。

基本目標の設定

- ①川越シャトルを「生活の足」として定着させるため、公共施設、駅、病院等の生活関連施設と居住地域を結ぶ、使いやすい川越シャトルを目指します。
- ②川越シャトルの持続的な運行ができるように、利用者数を増加させ、収入の増加を図るとともに、可能な限り効率化を図ります。
- ③公共交通の重要性や『みんなで支える川越シャトル』の意識を利用者・バス事業者・行政で共有できる事業を継続的に実施します。

個別の検討課題について

- ①料金体系の見直し
 - ②川越シャトル要望地区の調査・対応について
 - ③車両の適正化（大型化・小型化）について
 - ④乗り継ぎ料金について
- ほか

川越市都市・地域総合交通戦略との整合性の確認

路線の見直し（設定）基準

答申書・路線案の作成

目標を数値化すると